

新島襄の縁 教育・地域の発展に



協定書に署名し、幅広い分野での協力を誓った岩井均安中市長(左)と八田英二学校法人同志社総長・理事長(右)

ともに新島襄とゆかりがある安中市と学校法人同志社は7月17日、教育文化やまちづくりなど幅広い分野で互いに協力することを目的とした包括連携協定を締結しました。

人材育成の大切さを説いた新島襄の理念のもと、両者は今後、さらなる教育文化やスポーツ、地域の発展のため交流を活発化させていく予定です。

また、同日は協定の締結を記念した講演会と、北京五輪陸上男子4×100メートルリレー、銀メダリストの朝原宣治さんを招いた陸上教室が行われました。

おもな連携・協力内容

1. 教育・文化・スポーツの振興
(同志社関係者を招き、年1回程度講座を開催)
2. 人材育成のための連携
(市内企業技術者と大学関係者の相互交流)
3. 地域の活性化とまちづくりの連携
(学生のインターンシップ、Uターン就職促進)
4. その他、地元意見を取り入れ幅広い連携

包括連携協定締結にあたり

安中市と同志社の関係は、同志社の創立者、新島襄の故郷がここ安中の地であることに始まり、約10年のアメリカ滞在を経て帰国した時に遡ります。帰国直後の新島は、東京から人力車を飛ばし、両親の住むここ安中に向かい、家族との久々の再会を果たすとともに、近隣の住民を集め外国の文化や教育事情、キリスト教について帰国後最初の説教を行ったといわれています。



教育は社会の礎となる重要な要素であり、安中市と同志社の連携協定は、地域と教育機関との強いパートナーシップを築く重要な一歩となります。この協定は、私たちが共有する目標に基づき、教育の質を向上させ、地域の発展を促進するための協力体制を確立するものです。この連携協定により、両者の強みを最大限に活かし、さらなる教育の発展と地域社会の発展に貢献していくことができればこれに勝る喜びはありません。